

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-92	高等学校	地理歴史	日本史探究	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
7 実教	日探 007-901	日本史探究 新訂版		

1. 編修の基本方針

○2条の目標を達成するため、次の通り編修した。

- ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとり入れ、さまざまな視点から日本史の学習をより深めることができるコラム「Close Up」「日本史を見る目」「世界史を見る目」「地域を見る目」や特設ページ「STEP UP」を設けた（第1号）。
- ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページに、本文を読む上で課題意識をもつことができる「Point」、資料などを読み解き学習意欲を高める「Check」、学んだことを活用して考え、表現する「Try」など、さまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的かつ多面的・多角的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。さらに、本文ページで習得した知識を活用し、諸資料を使って多面的・多角的に考察・表現する特設ページ「ACTIVE 歴史を資料から考える」を、章の途中や章末に設けた（第2号）。
- ・正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、現代の日本の課題について考察する特設ページを設け、生徒自身が主体となる社会への見通しがたてられるよう工夫した。また、本文ページやコラム・特設ページを通じて、日本史上における女性の社会的地位の変化を考察できるよう工夫した（第3号）。
- ・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、近現代の産業の発達にともなう環境問題の発生や、その克服に向けた取り組みについて歴史的な視点からとりあげ、問いを活用して現代社会とのつながりや共通点・相違点、前後の時代との差異や変化を考察・議論することができるよう工夫した。また前見返し裏「日本の世界遺産」のなかで日本の自然遺産をとりあげた（第4号）。
- ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、各時代における日本と世界の関わりについて留意した記述をしているほか、日本と世界の関わりを示す事例をとりあげたコラム「世界を見る目」を設けた。また、前見返し裏「日本の世界遺産」で日本の文化遺産をとりあげ、本文ページ中では世界遺産・国宝に指定されている文化財・遺跡などにそれぞれマークを付した（第5号）。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する観点から、日本全図を掲載して旧国名と都道府県名を対照させ、その変遷を概観できるようにした（第5号）。 ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、近世における主要大名の配置図を示した（第1号）。 ・自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、「日本の世界遺産」を日本地図の中で概観した（第4・5号）。 	前見返し1 前見返し2 前見返し3
資料とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学における資料とは何かについて記述し、学習を始めるにあたっての導入とした（第1号）。 	p. 6
教科書をどう読むか	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、教科書をどう読み進めていけばよいかを示し、生徒から疑問や気づきが出やすいように工夫した（第2号）。 	p. 6
問いをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、具体的な資料を例示し、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付け、自分自身の問いや仮説を表現することができるよう工夫した（第2号）。 	p. 7
第1部 原始・古代の日本と東アジア		
INTRODUCTION	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、部扉に地図や年表などを設け、第1部で扱う原始・古代という時代の状況を概観した 	p. 8～9

	(第1号)。	
第1章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムを設けた(第1号)。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した(第2号)。 生命を尊び、自然を大切にする態度を養う観点から、本文ページは自然環境の変化に留意した記述とし、各時代の人々の暮らしをイメージできるような遺跡・遺物の写真をとりあげた(第4号)。 	p. 10, 14, 17, 19 p. 10～14, 16～18, 20～21 p. 10～21
歴史資料と原始・古代の展望	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解いていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の仮説を表現することができるようにした(第2号)。 	p. 22～23
第2章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムを設けた(第1号)。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した(第2号)。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、紀元前1世紀～紀元後6世紀の日本と大陸との関係を詳述した(第5号)。 	p. 25, 30, 33 p. 24～29, 31～33 p. 24～25, 27～28, 33
第3章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムや特設ページを設けた(第1号)。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた(第2号)。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、飛鳥・白鳳・天平文化と東アジアの文化との関係を詳述した(第5号)。 	p. 37～39, 46, 50, 53 p. 34, 36～45, 47～53 p. 40～41, 52～53
第4章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムを設けた(第1号)。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた(第2号)。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、コラムや特設ページで、古代における日本と外国との通交のあり方をとりあげた(第5号)。 	p. 55, 59～60, 63 p. 54～67, 69 p. 63～65
まとめと展望	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き、それをもとに生徒が発表し議論する形式をとることで、それを参考にして、原始・古代を通じた歴史の画期について考え、次に学ぶ中世への展望ができるようにした(第2号)。 	p. 70～71
第2部 中世の日本と世界		
INTRODUCTION	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、部扉に地図や年表などを設け、第2部で扱う中世という時代の状況を概観した(第1号)。 	p. 72～73
第1章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムを設けた(第1号)。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した(第2号)。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、11～12世紀における対外的な環境や国内の状況の変化について詳述した(第5号)。 	p. 75, 79, 83 p. 74～75, 78～83 p. 74～83

歴史資料と中世の展望	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解いていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の仮説を表現することができるようにした（第2号）。 	p. 84～85
第2章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 	p. 88～89, 92, 95, 104 p. 86, 88, 90～91, 93～94, 96～101, 104～107
第3章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムや特設ページを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、特設ページで琉球とアイヌの文化について記述した（第5号）。 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、特設ページで古代から中世における女性と仏教の関係についてとりあげた（第3号）。 	p. 113～114, 116～117, 120, 129, 131, 133 p. 108, 110～113, 115～118, 120, 122～126, 128～137 p. 117 p. 131
まとめと展望	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き、それをもとに生徒が発表し議論する形式をとることで、それを参考にして、中世を通じた歴史の画期について考え、次に学ぶ近世への展望ができるようにした（第2号）。 	p. 138～139
第3部 近世の日本と世界		
INTRODUCTION	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、部扉に地図や年表などを設け、第3部で扱う近世という時代の状況を概観した（第1号）。 	p. 140～141
第1章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した（第2号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、コラムで天正遣欧使節・倭城・世界図の流布をとりあげた（第5号）。 	p. 143～145, 149～150, 153, 156～157 p. 142～144, 146, 148～157 p. 144, 150, 157
歴史資料と近世の展望	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解いていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の仮説を表現することができるようにした（第2号）。 	p. 158～159
第2章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムや特設ページを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、コラムで朝鮮通信使をとりあげた（第5号）。 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、特設ページで近世の遊郭とそこで働く遊女の実情をとりあげた（第3号）。 	p. 161, 164, 168～169, 175～177, 179～180, 183 p. 160～161, 163～182, 184, 186～189, 191 p. 169 p. 177

第3章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムや特設ページを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、17～19世紀における世界の動きと、それにとりあう日本国内の政治・社会の変化について詳述した（第5号）。 	<p>p. 203～204, 206～207</p> <p>p. 192, 195～199, 201～202, 204～215</p> <p>p. 199～206</p>
まとめと展望	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き、それをもとに生徒が発表し議論する形式をとることで、それを参考にして、近世を通した歴史の画期について考え、次に学ぶ近代への展望ができるようにした（第2号）。 	p. 216～217
第4部 近現代の地域・日本と世界		
INTRODUCTION (近代)	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、扉として地図や年表などを設け、第4部第1章～第5章で扱う近代という時代の状況を概観した（第1号）。 	p. 218～219
第1章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した（第2号）。 	<p>p. 224, 226～227</p> <p>p. 220～227</p>
歴史資料と近現代の 展望	<ul style="list-style-type: none"> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解いていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の仮説を表現することができるようにした（第2号）。 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、近現代における家族規範やジェンダーについてとりあげた（第3号）。 	<p>p. 228～231</p> <p>p. 230～231</p>
第2章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した（第2号）。 	<p>p. 237, 239～240, 243, 245</p> <p>p. 232～245</p>
第3章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムや特設ページを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、松方デフレと当時の世界経済との関係について言及するコラムや、日露戦争のアジアへの影響について詳述した特設ページを設けた（第5号）。 自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、本文やコラムで足尾銅山鉛毒事件をとりあげた（第4号）。 	<p>p. 247, 249, 252～253, 262～263, 266, 273</p> <p>p. 246～248, 251～258, 260～263, 265～275, 277～281</p> <p>p. 249, 266</p> <p>p. 272～273</p>
第4章	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムや特設ページを設けた（第1号）。 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した（第2号）。 男女の平等を重んずる態度を養う観点から、本文で母性保護運動や女性参政権獲得運動についてとりあげた（第3号）。 	<p>p. 291, 300</p> <p>p. 282～283, 285～287, 289～295, 297～299, 301～303, 305</p> <p>p. 289</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、特設ページで近代日本における米のあり方をとりあげ、海外や植民地から輸入・移入された米や小麦についても言及した（第5号）。 	p. 291
第5章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、コラムで満洲での移民や中国残留日本人・シベリア抑留についてとりあげた（第5号）。 	p. 309, 311, 314~315, 317~318, 320, 323, 327 p. 306~308, 310~312, 315~322, 325, 327~329 p. 317, 327
INTRODUCTION (現代)	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、扉として地図や年表などを設け、第4部第6章~第7章で扱う現代という時代の状況を概観した（第1号）。 	p. 330~331
第6章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムや特設ページを設けた（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した。また、諸資料を活用して多面的・多角的に考察・表現する特設ページを設けた（第2号）。 ・自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、本文やコラム、特設ページで公害の発生と公害対策基本法の制定、環境庁の設置、現在に至る動きなどをとりあげた。また、近現代史におけるエネルギーの変遷や持続可能なエネルギーのあり方を考察する特設ページを設けた（第4号）。 	p. 335, 339~340, 342, 352~353 p. 332~350, 352~355 p. 351~355
第7章	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、歴史学の新しい研究成果をとりいれ、さまざまな視点から日本史学習をより深めることができるコラムや特設ページを設けた（第1号）。 ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、各ページにさまざまな問いを段階的に設定し、日本史を主体的に考察・構想・議論することができるよう工夫した（第2号）。 ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、特設ページで多文化共生をとりあげた（第5号）。 	p. 359, 363, 367, 369, 371 p. 356~358, 360~371 p. 371
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解き、それをもとに生徒が発表し議論する形式をとることで、それを参考にして、近現代を通じた歴史の画期について考えることができるようにした（第2号）。 	p. 372~373
現代の日本の課題の探究	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う観点から、「社会や集団と個人」「世界の中の日本」「伝統や文化の継承と創造」それぞれについて探究活動の事例をとりあげ、生徒がこれまでの学習をふまえて、主体的に探究活動の見通しをもつことができるよう工夫した（第3号）。 	p. 374~379
テーマ別さくいん	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点、加えて個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、一つのテーマに絞って関連事項をつなげてみることで、これまで学習してきたものとは違った切り口で歴史を捉え直すことができるよう工夫した（第1・2号）。 	p. 380~383
後見返し	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、近現代における政党変遷図を示した（第1号）。 	後見返し 4~5

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

・学校教育法第五十一条三項（社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。）に即して、本文記述や特設ページなど教科書全体を通じて、国際社会に生きる高校生が世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から理解し、現代社会が抱える課題についても考察することができるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-92	高等学校	地理歴史	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	日探 007-901	日本史探究 新訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

「歴史総合」で身につけた歴史の学び方をふまえ、我が国の歴史の展開について諸資料を活用しながら総合的な理解を深め、現代の日本の課題について考察、構想する力を養うことができるよう、下記の点について配慮した。

1) 全編にわたって近年の研究成果をふまえ、日本史の大きな枠組みと展開を理解できるよう、丁寧にわかりやすく記述した。

2) 「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を身につける学習が一体となって展開され、深い理解に至ることができるよう、全編にわたって課題（問い）を設定するなど配慮した。各節では、生徒が主体的かつ多面的・多角的に考察・表現することができるよう、以下のように課題（問い）を段階的に設定した。

①節タイトル下の問い

…その節で扱われる歴史の推移や展開を考察し、理解を促すための問い。

②Point

…生徒が課題意識をもって本文を読んでいくことを促す問い。

③Check

…資料を読み解く技能や、資料と本文内容を関連付けて考察する思考力を育成するための問い。

④Try

…その節で学んだことをふまえ、比較・関連付けや歴史的意義、現在とのつながりなどの観点から、生徒が自身の考えをまとめたり表現したりするなどして、より深い理解に至るための問い。

3) 本文ページで習得した知識をふまえ、諸資料を活用しながら多面的・多角的に考察・表現することで、思考力・判断力・表現力等を養うことができる特設ページ「ACTIVE 歴史を資料から考える」を、章の途中や章末に設けた。

4) A～Dの中項目（1）では、章の最後に「Challenge」を設け、生徒が章で扱った内容からキーワードをあげ、生徒同士での意見交換をおこない、そこから各時代を通観する問いを表現することができるようにした。

5) A～Dの中項目（2）では、架空の先生・生徒が会話しながら資料を読み解いていく形式をとることで、それを参考にして、生徒が主体的に資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけ、自分自身の仮説を表現することができるようにした。

- 6) Dの中項目(4)「現代の日本の課題の探究」では、「社会や集団と個人」「世界の
中の日本」「伝統や文化の継承と創造」それぞれについて、討論・レポート作成を活用し
た探究活動の事例をとりあげ、生徒がこれまでの学習をふまえて、主体的に探究活動の
見直しをもつことができるよう工夫した。
- 7) Dの中項目(4)「現代の日本の課題の探究」の後には、特設ページ「テーマ別さく
いん」を設け、10のテーマについて、教科書ではどのように扱われているのかという例
を示し、これまで学習してきたこととは違った切り口で歴史を捉え直し、自分自身でテ
ーマ別のさくいんを作る上での参考となるように工夫した。
- 8) さまざまな視点から、日本史を多面的・多角的に捉えるコラム「Close Up」や特設ペ
ージ「STEP UP」を随所に設けた。「STEP UP」には諸資料のほか、主題を明確にする問
い(冒頭の文章)、まとめの問い(Try)を設け、「知識及び技能」と「思考力、判断
力、表現力等」を身に付ける学習が一体となって展開されるよう配慮した。
- 9) 新しい研究成果をふまえ、日本史上における重要なテーマを解説するコラム「日本史
を見る目」、日本と世界の結びつきに注目したコラム「世界を見る目」、日本のさまざ
まな地域の動向に注目した「地域を見る目」を随所に設けた。
- 10) 概念用語をはじめ、本文を理解するうえで特に重要な歴史用語については、「Key
Word」で丁寧にわかりやすく解説した。また、解説が必要な歴史用語については、適宜
「*」をつけて側注で解説する形とした。
- 11) 各部の最後に「まとめと展望」(第4部のみ「まとめ」)を設け、架空の先生・生徒
の会話や年表・図版などを提示することを通じて、あるテーマに沿って各部で学習した
ことを振り返り、各時代における画期について生徒に考えさせられるよう工夫した。
- 12) 生徒が学習している節の年代を把握することができるよう、各節の冒頭に時代スケ
ールを設けた。
- 13) 生徒が各時代における世界と日本の歴史を関連付けながら学習できるよう、コラム
「世界史を見る目」で、日本と世界の関わりを示す事例をとりあげた。また、本文で
も、周辺諸国との関わりの中なかで日本の伝統と文化がはぐくまれてきたことに留意しな
がら、世界史に関係する記述を充実させた。
- 14) 巻頭に、特設ページ「資料とは何か」を設け、過去はどのようにして知ることができ
るのか、資料とはどのようなものを解説した。
- 15) 巻頭に、特設ページ「教科書をどう読むか」「問いをつくる」を設け、「歴史総合」
で学んだ歴史の学び方を活かした教科書の読み方や、「問い」「仮説」はどのように立
てていけばよいのかについて、具体例を挙げながら解説した。
- 16) 第1部～第4部の冒頭と第4部第6章の前には、部全体の歴史の流れを概観した年表
・文章とその時代に関連した地図・図版を設け、これから学習していく時代を生徒にイ
メージさせられるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1部 原始・古代の日本と東アジア			
第1章 日本文化のあけぼの	A 原始・古代の日本と東アジア (1) 黎明期の日本列島と 歴史的環境	p. 10～21	3
歴史資料と原始・古代の展望	(2) 歴史資料と原始・古代の展望	p. 22～23	1
第2章 ヤマト政権の成立と 古墳文化	(3) 古代の国家・社会の展望 と画期 (歴史の解釈, 説明, 論述)	p. 24～33	4
第3章 律令国家の形成		p. 34～53	8
第4章 古代の国家・社会の変容		p. 54～69	7
第2部 中世の日本と世界			
第1章 荘園公領制の成立と院政	B 中世の日本と世界 (1) 中世への転換と歴史的環境	p. 74～83	2
歴史資料と中世の展望	(2) 歴史資料と中世の展望	p. 84～85	1
第2章 中世の国家・社会の展開	(3) 中世の国家・社会の展望と 画期 (歴史の解釈, 説明, 論述)	p. 86～107	7
第3章 中世の国家・社会の変容		p. 108～137	10
第3部 近世の日本と世界			
第1章 東アジア世界の変容と 天下統一	C 近世の日本と世界 (1) 近世への転換と歴史的環境	p. 142～157	4
歴史資料と近世の展望	(2) 歴史資料と近世の展望	p. 158～159	1
第2章 幕藩体制の成立と展開	(3) 近世の国家・社会の展望と 画期 (歴史の解釈, 説明・論述)	p. 160～191	9
第3章 近世の国家・社会の変容		p. 192～215	7
第4部 近現代の地域・日本と世界			
第1章 開国から倒幕へ	D 近現代の地域・日本と世界 (1) 近代への転換と歴史的環境	p. 220～227	2
歴史資料と近現代の展望	(2) 歴史資料と近代の展望	p. 228～231	1

第2章 明治維新	(3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造	p. 232～245	3
第3章 近代国家の形成		p. 246～281	9
第4章 両大戦間の日本		p. 282～305	5
第5章 十五年戦争と日本		p. 306～329	7
第6章 戦後日本の形成		p. 332～355	6
第7章 グローバル化のなかの現代日本		p. 356～371	5
現代の日本の課題の探究	(4) 現代の日本の課題の探究	p. 374～379	3
		計	105